

## アイディアの

## 宝船

## 私の授業

Ja-Net 季刊ジャネット No.31 別冊

- 写真を使ったクラス活動 ..... 1
- ビデオカメラを使った会話授業 ..... 3

2004年10月25日発行

スリーエーネットワーク

## 写真を使ったクラス活動

青山国際教育学院日本語センター 遠藤康子

## はじめに

11月の日本留学試験、12月の日本語能力試験、そして学期末の定期試験が終わり、進路も決まってしまうと、日本語学校の学生は目標を失って、やる気が見えなくなってしまうことがあります。そんな時期を迎えて、1番上のクラスを持っていた私は、楽しみながら自分の感じたことを発表できるような授業を試してみようと思いました。そこで使ったのが、「フォトランゲージ」です。フォトランゲージは写真教材で、フォトは写真、ランゲージは言語という意味です。視覚言語で語られた画像（写真）の中に写しとられたものや、メッセージやサイン、そこから想像されるイメージを読み解いていく作業をします。

以前にも、モノクロの人物写真を使って、フォトランゲージをしたことがありました。それは各自が1枚ずつ好きな写真を選び、その人物になったつもりで作文を書くというものでした。そのときも、学生の書いた作文がとてもユニークで楽しいものだったので、写真を教材として使うことのおもしろさを学生と一緒に味わうことができました。

フォトランゲージをすると、同じ写真でも人によってイメージや捉え方が違うことに気がきます。学習者同士でお互いの物の見方や感じ方を話し合うきっかけにもできると思います。ここでの教師の役割は教えることではなく、学習者が自由にイメージを膨らませることができるようにすることです。使う写真は、新聞や雑誌の切り抜き、絵葉書、写真集など身近なものを工夫してみてください。

## 1. クラス概要

学習者：上級 漢字圏10名（韓国6名・中国4名）

授業形態：45分×3コマ

- 1コマ目：①準備
- 2コマ目：②文を考える ③構成を考える
- 3コマ目：④タイトルを考える ⑤鑑賞

目標：写真を材料にして、そこから感じた事を表現する。一人一人が感じたことを話し合い、協力してクラスで1つの作品として作り上げる。

使用教材：写真集『アジアの瞳 Pure Smiles』（スリーエーネットワーク）の販促用絵葉書

## 2. 授業活動

## ①準備

学生一人一人に1枚ずつ写真を配る（販促用の写真だったので、そこについての説明文とタイトルは切り取って渡した。事前に情報を与えてしまうと、想像力が働かなくなるため、写真だけを使用した。）。学生はその写真を見て思いついた言葉を10個、小さい紙に書き出す。次に3～4名で1グループとなり、その言葉を分類。説明・描写に関するものと、印象・感想に関するものとに分けていく。他のグループの分類したものと一緒にして、机の上に並べて、皆で読みあう。



使用した写真

## —学生の提出例—

- 説明・描写に関するもの  
黒い目・アジア人・女の子・鼻にピアス・5歳ぐらい・手を握っている・青い服を着ている・赤いひもをしている・歯が抜けている・未開発の国・鼻水の跡・笑っている 等
- 印象・感想に関するもの  
目が光っている・かわいい・貧乏な感じ・幸せそう・明るい・元気・かわいそう・希望と夢を抱く・無邪気・頼む・願い・おしゃれ・素直・期待・自由 等

② 文を考える

3つの視点から考えて文を作ってみる。どの視点にするかは学生に自由に選ばせた。

- 1) カメラマンの視点で書く。文末表現は「…僕はシャッターを切った。」とする。
- 2) 写真を見ている人の視点で書く。
- 3) 被写体の少女の視点で書く。

自由に選ばせた結果、クラス全員が2)を選んだので、その視点で書くことにした。本当はグループ分けをして、3つの視点で書かせたかったのだが、学生の自由なイメージを膨らませることを主題にしたかったので、学生の希望どおりとした。

③ 構成を考える

まず、全体の構成を考える。大きい模造紙を使い、タイトルを書く部分を決めさせる。そして、学生が各自で色紙を選び、好きな形に切り、そこに文を書く。

模造紙の上に、それぞれの紙を置く。先に配った写真も何枚か使い、形も自由に切って一緒に置く。全員で全体の構成を考え、それぞれの色紙と写真の配置を決める。

④ タイトルを考える

全体の構成が決まったところで、タイトルを考える。ホワイトボードを使って学生から出てきた言葉を書き出し、それを見ながら話し合った。タイトルは「純粋な瞳」と決まった。そこでどんな字体でどんな色で書くかを話し合った。参考としていろいろなフォント（ゴシック・明朝・丸文字等）を見せた。学生の代表がタイトルを書く。

⑤ 鑑賞

全員で完成した作品を鑑賞。それぞれの文のいい所を褒め合う。それから教師がこの写真集のタイトルとカメラマンの言葉を紹介し、写真集を鑑賞した。

○タイトルは「アジアの瞳」

○カメラマンの言葉

「少女のまっすぐな瞳には、他の子とは違う輝きがあった。ただ可愛らしいというだけでなく、そこには凛とした気高さが宿っていた。特別な少女なんだ、と僕は思った。ある時期に現れて、そしてある時期を境に消えてしまう特別なオーラを、この子は身につけている。風に揺らめくろうそくの火を写すような気持ちで、僕はシャッターを切った」

この文を学生に読んでもらい、そしてわからない言葉を出し合って、どんな意味かを考えた。この文からカメラマンの視点を理解してくれたようだった。

3. 感想

以前にもフォトランゲージをしたことはあるのですが、それは何枚もの写真を使って、叙述・描写・感想などを書くという活動でした。今回は1枚の写真からどのようにイメージを広げられるだろうかということを試す良い機会となりました。私自身がこの写真に魅せられてしまったことから始まった授業でしたが、学生たちもこの少女の写真からいろいろなことを考えてくれました。最後に全員で1枚のポスターを仕上げたということで達成感も感じられたようです。

また、作業中にはいつもの授業とは違う顔を見せてくれた学生もいました。ああ、この人はこんなことを感じているんだ、こんな風に考えるんだということがわかり、学生への理解、そして学生同士の理解も深まったようにも思います。そして、発表するという形をとったことで、表現することのおもしろさも味わってくれたようです。たった3コマの授業だったので、完成度はそれほど高くなかったのですが、学生と一緒に楽しんで作品を作ることができました。

学生の作品

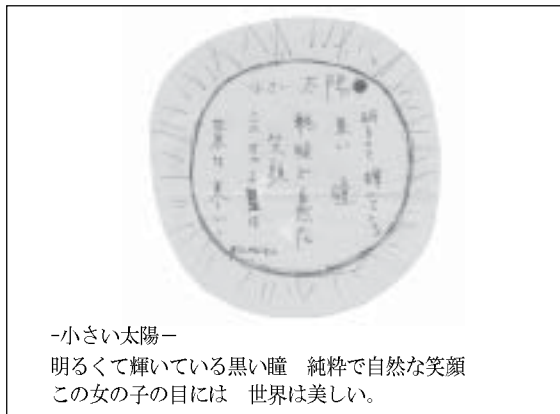
- 今回の「フォトランゲージ」での学生の作文。同じ写真でも人によってイメージや捉え方が違い、ユニークで楽しい作文ができた

可愛い無邪気な子供の笑顔を見るたびに、国の前途、世界の未来を考え出した。写真に写っている美しい女の子はどの国の人かは別に、きらきらと輝いている目、目つきから、未来への美しい憧れを持ち、将来への自信がいっぱいあることを、私は想像している。また、子供の時代に多くの自由と幸福を与えてほしいとの熱望が強い。子供たちも目の前に浮かんでいる私はなんとかして、助けてあげたいと思っている。

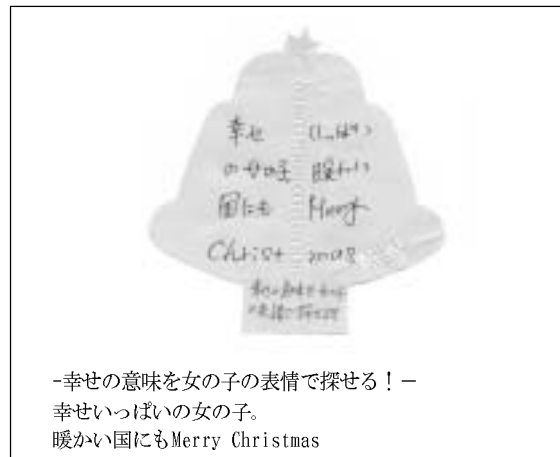
Reflection is pure yet...

“まだキレイなことしか見ていない純粋な瞳。  
戦争・紛争など これからこの瞳に映される世間の実態はこの瞳をどんなふうに変わらせるのか。  
この瞳をキレイなまま守ってあげたい。”

- 学生が色紙を使い、形も自由に切って、その中に作文を書くことで作品が完成。学習者同士でお互いの物の見方や感じ方を話し合うきっかけにもできる



-小さい太陽-  
明るくて輝いている黒い瞳 純粋で自然な笑顔  
この女の子の目には 世界は美しい。



-幸せの意味を女の子の表情で探せる！-  
幸せいっぱい女の子。  
暖かい国にも Merry Christmas

# ビデオカメラを使った会話授業

LIC国際学院 田中知信

## 1. はじめに

現在、様々なニーズを抱えた学生が、様々な形で日本語学習に取り組んでいます。そしてそれに対応していかなければならない日本語教師の皆様もまた、様々な形で腕を振るっていらっしゃるのではないかと思います。かくいう私も今まで多くの活動を捻り出し、多くの失敗を重ねてきましたが、中には学生や他の先生方から好評を頂いたものもあります。今回はその中からビデオカメラを使った活動をご紹介します。

私たちの学校では各レベルに「会話」の時間があります。就学生クラスの授業が留学試験対策一辺倒にならないように口を使っていろいろな練習を行う時間なのですが、私はこの会話の時間に「自分の発話を客観的に捉え、問題点を発見する。」という活動を目的の1つとして掲げています。これは自分の発話・文法面だけでなく話し方・態度・表情までをトータルで捉えるという意味でもあります。母語では元気に、自信満々に話す学生が、日本語となると急にまじもじしたり、消極的になったりということはさほど珍しいことではないと思いますが、意外と学生本人がそれに気付いていないことも多いようです。そこでショック療法(?)の1つの手段として、ビデオカメラを使用することにしました。

## 2. 授業概略

【対象学生】 中級半ば以降の学生、10人前後のクラスレッスン

【授業時間数】 1コマ45分×3コマ

【到達目標】 日常生活で耳にした表現の意味を知り、実際に運用できるようになる。

- 【活動目的】
- ・自分の発話を客観的に見て問題点を発見する。(発話・文法面だけでなく話し方・態度・表情まで)
  - ・他人の発話を採点することにより自分の聴解力、文法力などを確認する。
  - ・日頃耳にしながら意味がはっきりとわからなかった表現・語彙を運用してみる。

【授業の流れ】

	時間	活動内容
1	0～10分	2人ずつのペアに分け、最近日常生活で聞いた気になる日本語を出し合い、その中でいくつか候補を絞る。
	10～25分	各ペアの表現を発表し合い、それぞれの意味を確認しながら最終的に1つに絞る。
	25～35分	最終的に選んだ表現の使用場面を確認、代入練習。
	35～45分	各ペアで使用場面を決定後、会話文作り。
2	0～15分	復習⇒会話文作り(なかなかできない場合はモデル会話提示)
	15～30分	会話練習⇒暗記して練習
	30～45分	発表(ビデオ撮影)
3	0～15分	復習 ビデオを見ながら各自で採点する。
	15～35分	それぞれへのアドバイス、間違いの訂正。(学習者同士で、が基本。教師はサポート役)
	35～45分	まとめ(自分の発表を見た感想、運用表現の確認)

\*3コマ目はどうしても時間がかかってしまうため、まとめ部分を他の日に回すこともある。

## 3. 進め方詳細

=1コマ目=

始めに表現を出し合うときは、制約を設けずとにかくたくさん出させたほうが学生も乗ってきます。その後教師が使用頻度が高く、学生たちが使ってもおかしくないような表現へと誘導し、決定します。

(おもしろいことに、幾多の使用不可表現、語彙の中に必ず、これなら覚えて欲しいというような表現が含まれているものです。)

① クラスによっても違いますが、基本的には全ペアで同じ表現を使用した方が学生や教師の負担も少ないと思います。

このとき、あまり必要のない語彙・表現の解説、説明にはほとんど時間を割かないようにするのが大切だと思います。学生というのは運用の必要性が薄い表現(特に俗語)に限って早く覚えてしまうものです。焦点が霞んでしまわないためにも時間配分には注意が必要です。

例①

学生提出表現：

おととい来い      っていうか～  
まじきもい      ～とは思っけど  
はい、喜んで      ～のはどうかと思う  
～たりして      ～1つ入ります!  
～ってどうなの? (婉曲的な批判表現?)  
ぶつちやけ      やばい      …等

選択表現：

～のはどうかと思う

＝2コマ目＝

前回の表現の意味を確認、口慣らしの後、会話文作りを再開します。この時、教師はそれぞれのペアを見回りながら適宜語彙指導、作成指導を行います。あまり長い会話文は必要ではないので、簡潔な会話を作るように指導します。だいたい目安としては各自の台詞が4、5回ずつあれば良いくらいでしょうか。このとき、どうしても会話文を作成できないペアのために、教師はモデル会話を数パターン準備しておく必要があります。(例②)

この程度の会話であれば10～15分で十分暗記できます。表情に気をつけて俳優になったつもりで練習させることも大切だと思います。早くできてしまったペアにはちょっとしたしぐさなども考えるよう指導します。(頭を掻く、腕を組む、など)

それが終わったらいよいよビデオの撮影です。発表の際には余計な緊張を避けるため、三脚を使って教室の隅から撮影し、教師がカメラをあまりいじり回さない等、できるだけカメラを意識させないようにしたほうが良いと思います。テレビの撮影ではないのでカメラ目線なども必要なく、全体像が捉えられるように撮影するとういと思います。

＝3コマ目＝

3コマ目に入る前に、教師はビデオを見て各ペアの優秀な点と問題点を洗い出しておきます。そして学生の採点のための採点シートも準備しておきます。(例③) 学生たちはビデオを見ながら下記のような採点シートに記入していきます。そして各ペアの間違いや、気になった点、良いと感じた点を書き出させます(これはあくまでも学生の採点で、教師の採点とは異なるということをはっきりさせておいたほうが良いでしょう)。その後、もう一度ビデオを見ながら各ペアについての意見交換、アドバイス等を行い、まとめに入ります。この時学生が書いた採点シートは教師が集めます。後に別紙に集計し、教師のコメントもつけてフィードバックの材料とします。

まとめは何よりも自分の発話時の状態を客観的に見てどう感じたかを考えさせることが大切だと思います。ここにこそビデオを使う意味があるのですから。

4. まとめ

ほとんどの学生はここで初めて、自分にとって外国語である日本語を話している姿を視覚的に捉えることとなります。それを見て多くの学生が驚くことでしょう。ですがその驚きを感じるこそ、この活動の目的なのです。そしてこの活動は、今後就学生が進学のために面接に臨む際、大きく役に立つのではないのでしょうか。

例②モデル会話文例

- A「ねえ、昨日の宿題やった？」
- B「うん、やったよ。」
- A「ちょっとわからない問題があったんだけど、教えてくれない？」
- B「ううん…。 できるかな…。」
- A「どうして？宿題やったんでしょう？」
- B「実はね、友達の宿題を全部写しただけなんだよ。」
- A「ええっ！いくら大変だからといって、友達の宿題を丸写しするのはどうかと思うよ」
- B「そうだよね…。 明日から気をつけるよ。」

\* \_\_\_\_\_ 部分は空白のまま提示し、学生に考えさせる。

例③

	声	わかりやすさ	発話	文法	態度	総合
発表者氏名						
発表者へのコメント						
発表者氏名						
発表者へのコメント						

- 3＝素晴らしいです
- 2＝まあまあ上手です
- 1＝もっと頑張ってください

総合⇒合計点が 0～5＝C  
6～10＝B 11～15＝A

- \*声＝声の大きさ
- \*わかりやすさ＝作成ダイアログのわかりやすさ
- \*発話＝発話時のポーズ、リズム、イントネーション、アクセント、スピード等
- \*文法＝発話時の文法
- \*態度＝発話時の姿勢、表情、熱意等

Ja-Net 季刊ジャネット No.31 別冊

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2004年10月25日発行

●発行人 藤野政子  
●発行所 (株)スリーエーネットワーク  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 松栄ビル  
Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6194  
営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195  
http://www.3anet.co.jp E-mail: ja-net@3anet.co.jp

●印刷

日本印刷(株)  
© 2004 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)